

## 令和2年度第2回砂川市総合教育会議

○日 時 令和3年3月18日(木) 10:00～11:24

○場 所 砂川市役所中会議室

○出席者

(構成員)	市 長	善岡 雅文
	教育長	高橋 豊
	教育長職務代理者	平間 芳樹
	教育委員	中村 吉宏
	教育委員	住 亮太郎
	教育委員	皆上 嘉代

(事務局)	総務部長	熊崎 一弘
	政策調整課長	井上 守
	政策調整課長補佐	
	兼企画調整係長	谷地 雄樹

(教育委員会事務局)	教育次長	河原 希之
	学務課長	是枝 貴裕
	学務課指導主事	松田 安弘
	学務課課長補佐	小島 武史

○議事録

熊崎：今日は、お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。ただいまから、令和2年度第2回砂川市総合教育会議を開催します。はじめに市長より挨拶を申し上げます。

市長：3月議会も昨日終わり、新しい予算も承認された。4月から、私の任期残り2年の事業を進めていく。コロナによりいろいろ厳しいところもあるが、コロナ後の砂川市をイメージしながら、やれるものは着々と進め、遅れることの無いように執行していきたいと思っている。おそらく令和2年、3年は、世界の歴史に刻まれる2年間になると思われる。日本経済に与える影響も大きく、今はなんとかやっているといるが、あれだけの国の借金を抱えた影響が、おそらく後年時に大きく出てくると思われる。それを見据えながら、10年後にどういう状況になっているかを見据えながら、ある程度そこまでの余力をどう残していくかが重要。一方今必要なことはやらなければならないという、大変難しい判断を迫られる年であったが、砂川市を持続可能なまちにする、健全な財政状

況を維持していかないと事業ができない。そのような考え方の中で予算を組んでいるものと考えている。教育予算も補助金があまり無く、どこの市町村もそうだが予算が付きづらい中、今一番重要なのは子どもの教育をどうするかと、学校の統廃合の中で砂川のイメージ、学校がこれを契機によりよい方向にどう向かっていくか、これが我々に課せられた使命だと考えている。教育委員の皆様には砂川の教育行政についてご尽力いただいているが、一層のご支援・ご活躍をご期待申し上げ挨拶としたい。

熊崎：これ以降の進行については、設置要綱第4条に基づき、議長となります市長にお願いします。

市長：開始前に、本会議は原則公開しておりますが、(3) いじめに関する調査については、個人情報に関する案件であることから、非公開で行いますのでご了承願います。

市長：それでは(1) 砂川市教育大綱についてになります。事務局より説明をお願いします。

井上：(1) 砂川市教育大綱について、政策調整課谷地課長補佐より説明いたします。

—谷地課長補佐より資料1に基づき説明—

市長：この内容は、教育委員会でも協議しているのか。また、総合計画に沿っているものなのか。

教育長：第7期総合計画と教育委員会で策定した教育目標、教育推進計画に基づいて整理されており、教育委員会でも検討済みである。

市長：そうであれば特に意見は無いか。

—意見なし—

市長：意見が無いようであれば、この内容でよろしいか。

—了承—

市長：それでは次の議題に進める。

井上：(2) 小中学校適正規模・適正配置について、学務課小島課長補佐より説明いたします。

—小島課長補佐より資料2に基づいて説明。2月16日現在で、豊沼小学校と砂川中

学校の PTA とは同意を得ているほか、その後砂川小学校、中央小学校、北光小学校の PTA と同意を得ている旨を報告—

市長：同意が進んでいないのは、空知太小など距離の遠いところか。

小島：はい。空知太小学校については、砂川中学校付近から一番遠いところであり、学校統合による影響が大きいので、丁寧に協議をしたいということから、そのように進めているが、近日中に合意頂ける見込みである。

市長：バスとか交通手段ということか。

小島：そのほか、制服の問題についてもどのように進めるのかをきちんとしてほしいというところもある。

市長：制服の問題はその時点から入ってしまうのか。

小島：これからの協議ではあるが、やはり関心は高い。

教育長：制服については本当は準備委員会で話すものと考えていたが、説明会で先に話が出たことから、統合の協議の中で論点に挙げられた面がある。本来は統合が決まってから準備委員会で相談する事項である。制服は市教委と PTA だけで決められるものではない。そこは丁寧に説明すれば理解してもらえらると思う。準備委員会は新年度が始まったら早めに立ち上げようと思っている。

市長：色々な学校から多様な意見が出てくるのか。

教育長：一般的には次の新しい学年が入るまでは2校の制服が共存している。どこもそうなので、石山中学校には丁寧に説明して理解をもらいたいと考えている。

市長：そういった意見は分けて説明や協議はできないものか。

教育長：今の段階では石山中学校にそこを丁寧に説明して理解をもらうよう進めている。空知太小学校の同意を得られれば後は石山中学校のみとなる。石山中学校も統合に反対しているわけではない。

市長：常識的に考えると、保護者は早くして欲しいというところだと思う。部活の制限などを考えるとそうだと思うが、交渉事なので、相手方とのボタンの掛け違いが無いようにはしなければならない。

皆上：統廃合は早くして欲しいという声は大多数だと思う。今の制服の件は、説明会で保護者から質問が出たものである。石山中学校は女子はジャンパースカートというか、ワンピース型で今はなかなか無いデザインである。

住：古いタイプのデザインである。

市長：新しい制服を早めに決めてしまった方がいいのか。

皆上：いっそ、統合を伸ばすとか1年先送りとかでは無く、統合前に両校の制服をそろえてしまって、同じ制服で上がれるようにしてはどうか。それが一番スムーズではないかと思う。

市長：それは一番現実的である。

皆上：石山中学校の数が少ないので、3年生に上がった時に、少ない人数だけ制服が違ってしまう。

市長：それは反対する人はいるのか。

皆上：それは分からないが、経費が掛からないし、統合後に制服が一緒なので、疎外感が生まれない。統合後にみんな同じ制服なのに、3年生の一部30人くらいが制服が違うというのは良くないし、その後も旧制服はどんどん減っていつてしまう。後1～2年の間に決めてしまえばよいのではないか。

市長：理論的に正しい。

教育長：間に合わない子が必ず出てくる。1年2年かけなくても、今年の秋までに決めて、令和4年から新制服にすることはできるが、最後の3年生は現在の制服で残ってしまう。どうしても一部は前の制服の子が出てしまう。そうでなければ1年延伸しないとならない。例えば、来年入学の子から制服を変えて、その子らが3年生になって、全て新制服になってから統合するなら問題ないが、今の1年生が3年生になった時に前の制服のままで残る可能性がある。また、石山中学校の中でも、1年生は新制服だが、2、3年生は旧制服という学校の中での違いが出てくる。それが全部整理出来たのちに統合すれば、保護者の負担の問題は無くなる。今最短で統合すると、統合した年度に3年生になる子だけが旧制服で残ってしまう。統合を早くして欲しいという声もあり、令和6年より前に統合するとどうしてもそういう生徒が出てくる。最短で令和5年に統合すると、今年の中学1年生が今の制服で令和3～5年過ごすことになり、統合時に3年生だけが旧制服になる。来年の中学1年生から新制服にすれば、それ以降は新制服になるが、学校内での違いは出てくる。令和6年だと、そのような

事は無くなる。

市長：制服を作るのはいつ頃なのか。

教育長：入学の前の年の10月～12月くらい。だから小学6年生の12月くらいまでには、いつから変更するかは決めてあげないとならない。それは少なくとも令和3年の中ではできる。そのため、来年の新1年生から同じ制服にすることはできる。ただ、今年の1年生は去年の10月～11月に説明会をして、1月から協議をしているので、今年の1年生からは間に合わなかった。ここは交渉の中でどこで折り合いがつくかのところなので整理させてほしい。石山中学校の中で新旧の制服が混在することへの理解も確認はしていない。

市長：分かった。小中一貫教育は導入するという事でよいのか。

教育長：小中一貫教育にするのは決定。後は義務教育学校、小中合わせた学校にするかをこれから協議する。

市長：統合はいつ頃になるのか。

教育長：小学校の統合なので、計画では令和9年度。仮に1年程度前倒しすると令和8年度になる。校舎建設は工事で2年、基本設計、実施設計1年ずつで物理的に4年かかる。それでもまだ、翌年にグラウンド等を整備しなければならない。実質5年かかるが、子どもたちは4年目で統合となる。

市長：学校の規模は大きくないので、建設時期を早めることは可能なのか。

熊崎：建物は12カ月ではできない。1年以上はかかるし、年度替わり時に入ることを考えると、建設工事は丸2年を見ておいたほうが安全である。基本設計と実施設計で2年と、実際の工事で2年。

教育長：基本、実施設計の前に、国の補助金等の関係で文科省・道教委とも協議が必要になる。協議は令和3年度から進めなければならない。

市長：補助金が確実に確保できる手法というものはあるのか。

教育長：基本、国の補助基準の定めによる。国の予算も枠があると思うので、その中に入るかどうか重要である。現在は、エアコンの頃から補助は拡充しているので、問題ないと思うが。

市長：単なる修繕なら付きづらいが、統合するなどをやれば付きやすいなどあるのではないか。そういうことも考えて補助金を確保していくのが大事である。

教育長：学校統合によるもので、単に施設の老朽化では無いため、その辺は異なる点である。

市長：補助金の対象メニューを探しておいて、それを踏まえたスケジュールで進めるなどが良いのではないか。庁舎建設もだいぶ前から補助金を探していた。元々庁舎建設に補助は無く、自前で建てるのが一般的だった。防災センターの役割もあるのに、単費というのはおかしいと話をしてきた。近年、地震により庁舎が壊れるという事態があったため、3年間限定で補助が付くことにはなったが。

教育長：補助金と過疎債をどこまで充てられるか。

市長：市長部局と連携して進めてほしい。

市長：うちが過去財政難に陥った理由は、学校の統廃合であちこちの学校をみんな新しくしたこと。数が多すぎて費用がかかりすぎた。維持にも費用がかかるが削れない経費だった。今回は統廃合するので、そんなに費用はかからないだろうが、市長部局と連携を密にして、財源の方は費用対効果を考えずずっとやっていくしかない。その他、皆さんから特に無ければ、次の議題に入ります。

(3) 以降は非公開